

第2回 伊予市地域公共交通活性化協議会

■日 時：2023（令和5）年8月31日（木）14:00-15:10

■場 所：伊予市役所 3階 庁議室

■出席者：委員21人中19人出席

■開 会

--- 会長（伊予市副市長 青野 昌司）挨拶 ---

■議事

（1）地域公共交通計画について

事務局

--- 資料1：地域公共交通計画についての説明 ---

（意見・質問 特になし）

（2）住民アンケートについて

事務局

--- 資料2：住民アンケート調査についての説明 ---

A委員

- ・伊予市内にお住いで、バスや鉄道を利用して通勤などされている方は、住民アンケートと公共交通利用者アンケートの両方回答してもらうのか。それともどちらか1つの回答で良いのか。

事務局

- ・住民アンケートと公共交通利用者アンケートの内容はそれぞれ異なるため、両方のアンケートに答えていただきたいと考えている。

A委員

- ・両方のアンケートを回答する必要があることを記載しておかないと、片方のアンケートしか回答しない可能性がある。
- ・答える身としては、1回ですべて回答できるようにしていただければと思う。

事務局

- ・公共交通利用者アンケートは、駅などで乗降者にお声がけし協力をお願いをするが、その時点で住民アンケートを回答された人は断られると思うので、そういう人に対しては、片方のアンケートのみの回答にする。
- ・住民アンケートと公共交通利用者アンケートの実施時期の関係もあるが、現場で対応したいと思う。

B委員

- ・サンプルデータは多ければ多い方が良いと思う。今回のアンケートの回答は、1世帯2名に限定しているが、せっかくWebアンケートを用意するのであれば、回答を2名に限定せず、世帯内のスマホを持つお子さんなどにも回答してもらい、サンプルを多く集めるのが良いのではないかな。

事務局

- ・配布部数の2部は、伊予市の1世帯当たりの平均人数から設定している。Web回答に関しては、ご意見の通り2人以上の回答でも良いので、依頼文にその内容を記載するようにする。

B委員

- ・配布部数には限りがあるが、Web回答は複数でも良いと思うのでぜひお願いしたい。

C委員

- ・双海と中山は電車がなく、特に中山はバスが通らない地区であり、デマンドタクシーがお年寄りの唯一の足になっている。こうした実情をアンケートの集計の中で伊予市中心部と同じように取り扱くと、地域公共交通計画が伊予市中心部だけの計画になってしまうことを危惧している。伊予市、双海を含め、中山の意見を掬うように、公平な判断できるような計画にしてほしいと思う。

事務局

- ・基本集計は伊予市全体で1つではなく、双海、中山はそれぞれ分けて集計し、特性を把握する予定である。集計単位については、旧町別、あるいは地区別など、回収数に合わせて設定する。

D委員

- ・公共交通利用者アンケートは、駅ではどれくらいの部数を配布する予定か。また、配布日数やその時間帯も教えていただきたい。
- ・中山では、伊予中山駅で公共交通利用者アンケートを配布するとのことだが、アンケートの内容は現状把握がメインになっており、移動手段についていろいろな意見を掬うような内容になっていないと思う。そこで、例えば伊予中山駅までどのような手段で来たのか、今後どうしたらよいのかなど、地域における公共交通の足をどのようにしていくのかなどの要望を地区の皆さんからいただけるような内容にしてほしい。

事務局

- ・公共交通利用者アンケートの配布時間帯は、午前7時から午後7時までの12時間で、全ての乗降者を対象に配布する予定である。当然、お声がけしたときに受け取りを拒否される人もいると思われる。調査日数は数日かけて行うわけにはいかないため、火、水、木のいずれか、イベント等がない日に実施する予定である。
- ・公共交通利用者アンケートの内容については、資料3で説明する。

(3) 地域公共交通利用者アンケートについて

事務局

--- 資料3：地域公共交通利用者アンケートについての説明 ---

E委員

- ・各公共交通利用者アンケートの最後に、課題に対する具体的な改善策を聞くような設問があるが、例えば移動についてこんな風になったらよいとか、叶えられるかは別としてご希望があれば記入していただくことで、住民からの意見を広く聞けるようにしていただけたらと思う。

事務局

- ・ご指摘いただいたように、移動について自由な意見・要望を書いていただけるように修正する。

A委員

- ・公共交通利用者アンケートは鉄道、コミュニティバス、デマンドタクシーのみとなっているが、市内を運行するバスはないのか。または、そのバスの利用者が非常に少ないから対象としていないのか。

事務局

- ・伊予市内の路線バスはコミュニティバスのみである。広域バスは存在するが、バス停が1、2箇所程度で利用者も少ないため対象としていない。

A委員

- ・住民アンケートと公共交通利用者アンケートに同じような設問がありながら、聞き方が若干異なる箇所がある。例えば、個人属性を聞く設問で、住民アンケートでは職業を聞いていないが、公共交通利用者アンケートでは聞いている。2つのアンケートを別で集計することを前提としていると思うが、あわせて分析するという視点がないと思う。
- ・鉄道利用者へのアンケートは利用者数の多い駅で配布すると思うが、移動経路を聞くということは、疑似的にパーソントリップのようなことをしたいのか。もしするのであれば、アンケートを実施しなかった駅の実際の行動が無視されてしまうので配慮していただきたい。

事務局

- ・双海の駅は利用者が1日当たり10人未満という状況であるため、今回は調査対象外とした。

A委員

- ・調査を実施しないのは良いと思うが、調査の集計上、パーソントリップのような分析で、双海の駅を起点とした移動がないという結果になると、コミュニティバスやデマンドタクシーが通らなくても良いという判断になってしまうことを危惧しているので注意していただきたい。

事務局

- ・公共交通利用者アンケートで職業を問う設問を用意しているのは、公共交通利用者は必ずしも伊予市内にお住いの人だけではなく、市外にお住いの人でも利用しており、個人属性を明確にするためである。

B委員

- ・鉄道は平日と休日で使われ方が異なると思うが、公共交通利用者アンケートは平日のみ実施するのか。

事務局

- ・コミュニティバスやデマンドタクシーは休日の運行はしておらず、公共交通の連携の観点と、費用の都合から休日調査が難しいため、通勤、通学利用者が多い平日の1日としている。

A委員

- ・デマンドタクシー利用者を対象とした調査について、アンケート調査票の配布は1日だけで取得サンプル数は十分なのか。

事務局

- ・アンケート調査票はデマンドタクシーの運転手に依頼をし、利用者へ手渡しで配布してもらうことを想定しているため、1日だけではなく、数日にわたって配布することを検討する。

D委員

- ・公共交通利用者アンケート調査は平日の1日で実施することだが、どれくらいのサンプルを取得すれば統計上満足するのか。また、アンケート調査票はどれくらい配布する予定か。

事務局

- ・利用者の全員にお声がけし配布するが、受け取り拒否の数や回答率は実際に実施してみないとわからないので、実施後に数値で示すことになる。また、追加調査は費用の都合から難しい。

D委員

- ・例えば、鉄道利用者が1日10人と極端に少なかった場合は、その10人を100%とし、それ以上は調査を行わないのか。

事務局

- ・アンケート調査自体、回収率の目標値は定めるが、実際の回収率は実施してみないとわからないため、まずは実施しその結果を持って検討させていただくことで了承いただきたい。

会長

- ・ 相当の費用をかけた調査で、調査実施後、極端に少ないサンプル数では納得できないと思うので、事務局として再度検討し、納得できる数字を示すこと。
- ・ 回収率などについては次回協議会で報告することです承いただきたい。

B委員

- ・ 自治体の調査票はどうしてもかしくなったものになってしまうと思うが、今回のアンケートはできるだけ回収できた方がよいため、調査票を受け取った人に興味を持っていただき、調査目的や住民のために実施していることがわかるようなデザインにしてはどうか。

事務局

- ・ 検討させていただく。

事務局

---その他の説明---

E委員

- ・ アンケート調査の他に、交通事業者へのヒアリングや伊予市役所内の福祉部門へのヒアリングなどを実施し、一般の方の意見は吸い上げられるのか。
- ・ 自家用送迎や福祉バスなどのサービスが運行されているかわからないが、そういった情報を今後アンケート以外で集めることで、地域公共交通計画の参考になると思う。

事務局

- ・ アンケート結果や情報に対して交通事業者との協議や、伊予市の福祉担当課とも町内会議の実施を検討しており、そこで情報共有を図られると考えている。
- ・ 次回協議会では、民間が運行するバスなども含めて伊予市内の地域公共交通を調査し、現状を整理し提示する予定なので、そこで協議させて頂きたい。

閉会

以上